

令和4年4月号

春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp

セントノア smile



3月誕生会風景



飾り付けて
意外と
難しいのよね

1
病棟



雪洞はこのあたりに...

『お雛様を飾りましょう』ゲーム。上手に飾り付けられるか勝負です。お内裏様が右側だから京雛かな？



2
病棟

おめでたいわねえ

引張ったら
何か出たよ

本当だ！



こりや倒れるかな？

バランス感覚がものをいう『ひし餅重ねてみよう』ゲーム。欲張って無理のしすぎは禁物ですよ。



この筒を向うに
送るわけね...

そうみたいよ。



3
病棟

どんどん送って
ください

それいけ！

お！来た来た！

流して来たよ

『筒流し』ゲームはチームワークの良さがカギ。皆さん一列に並んで…レッツゴー！

～目次～

- 病院短信 富永 真由美
- 日常の一コマ 杉山 奈緒子
- いきいき看護・介護 小沢 のり子
- 検査科だより 木村 収実
- 3月誕生会 デイルームにて
- スタッフ紹介 臺 裕美

4月の予定



◇誕生日会

- 1病棟 4月12日(火)
 - 2病棟 4月8日(金)
 - 3病棟 4月11日(月)
- 各病棟デイルーム 14:00～

◇お花見会 日程未定(好天日実施)

院庭にて 14:00～

スタッフ紹介

2病棟 看護師

だい ひろみ
臺 裕美

血液型 AB型
趣味 本屋さんで
過ごす事



「ご縁ってあるんだな…」新しい環境で50過ぎたこの歳でやっていけるのかと、不安しかない入職でした。日々緊張している私に優しく声掛けをしてくださる師長さんや先輩社員さんに恵まれ、頑張れました。また入職したての頃、病院の駐車場で迷子の仔猫にも出会い、我が家の癒しの源になりました。今後も、ご縁と出会いを大事に感じながら過ごしていきたいと思っています。



病院短信

『入職3年間での質疑応答と雑感』

精神神経科医師 (精神保健指定医)

富永 眞由美

当院に就職し今月でまる3年になります。この間受けた主な質問に対する回答と3年間の感想を記したいと思います。

【質問1】認知症患者さんの家族とのかかわりで大切にしてほしい事

認知症患者さんの家族に限らず、家族にはまず病名・症状・予後(一般的には今後どういった経過を辿るか)をできるだけわかりやすく説明したうえで、質問や説明を求めることができる機会を必ず設けるようにしている。

特に症状については、問題行動は病気によるものであって(認知症の場合、猥褻行為や不潔行為、暴言・暴力など)本人自身がわかってやっているのではなく病気がさせている事を強調し、患者さん本来の人格を守るようにしている。

ここにくる認知症患者さんの家族では、介護に疲れた人や施設に苦情を言われてつらい思いをした人についてはその苦労をねぎらい、また逆に今まで受けた扱いに不満がある人にはその不満にできる限り耳を傾け、どちらも今後ここではしっかりとできる限り傾けることはして最期までお引き受けする事を伝えるようにしている。

【質問2】当院の理念についての私の解釈

『最期まで人間らしく』過ごしてもらうためには、まず人として尊重される事が重要だと考えている。また瞬時に忘れる事が症状の人には不安・興奮等を減らす



日常の一コマ

今回の一コマは1病棟の嘉吉(96歳)さんです。嘉吉さんは川口市の大きな農家で生まれ育ち、21歳のころに(記憶がハッキリしないそうです)ご結婚。その後23歳の時にお父さんが65歳で急逝され、農家の後を継いだそうです。そしてその後は5人のお子さんにも恵まれ、吉田家を守りながら地域の世話役としても尽力され、PTAの会長や交通安全協会理事、明治神宮の崇敬会の役員なども長く勤められたそうです。

そんな嘉吉さんでしたが、87歳になった頃から体調が悪くなり、川口の医療センターを受診。その結果、胃癌との診断を受け、さらにアルツハイマー型認知症とも告げられたのだそうです。胃癌は年齢的にも手術の対応にはならないとの事でしたが、問題は認知症です。その後も嘉吉さんの体調不良は少しずつ増していき、高血圧や胆石での入退院を繰り返し、それに比例するように認知症の症状も進んでいったようです。症状としては易怒的な(怒りっぽい、過度に興奮する)行動が増え、転倒や失禁なども時折見せるようになり、殆ど外出もしなくなったそうです。

令和元年の9月にベッドから起きられず、食思低下(食欲不振。認知症の症状の一つで、特徴として食べたと思ひ込み、食事を出されても食べることをしないため、栄養不良となってしまう事もある。)となり入院。そして退院後はさらに認知症状も進み、自宅での介護も困難となり、嘉吉さんの奥様も過去に当院に入院していた縁もあって、令和元年9月に当院に入院となりました。

入院当初はやはり帰宅願望の訴えが多く見られましたが、ご家族の方たちが足しげく面会に来られたこともあり、また、少しずつですがこの病院の環境にも慣れ、何よりもスタッフや患者さんたちとお話で、笑顔も多く見せるようになってくれました。ある時、こんなこともありました。テーブルメイトの患者さんが、体調不良で点滴を受けている時、車椅子でベッドサイドまで行き「大丈夫か?」と声をかけていました。世話人としての嘉吉さんの面目躍如の一コマです。



そしていつもスタッフたちに、宝物のようにお孫さんやひ孫さんの写真を見せながら話してくれます。それは周りの人たちをも巻き込んで、みんなを笑顔にもしてくれるのです。

最近では体調不良の日もあり、ベッドに横になっていることも増えました。「嘉吉さん、ベッドは似合いませんよ」と声をかけると右手を上げて表情も和らぎます。男性陣の中では一番の年長者である嘉吉さん。その笑顔を私たちにも沢山見せてくれるように、スタッフ一同、心より願っています。

1病棟 介護福祉士 杉山 奈緒子

検査室 だより

検査技師 木村 収実



新型コロナと共存して3年目となりました。みなさん、『コロナ疲れ』していませんか?『コロナ疲れ』の明確な定義はありませんが、外出時にマスクをつけることや、外出自粛を続けること、飲食店の時短営業による不便さを我慢することや先の見えない不安と経済的な圧迫が原因となり、体調不良をきたすことを指すようです。この疲れ、ストレスは適度に解消していくことが大切です。先月号で患者さんが楽しそうにダイコン掘りをしている写真が掲載されました。菜園やガーデニングは『五感』を活用するため、ストレス解消には高い効果があるようです。

視覚: 植物の色彩を見て楽しむことができる

触覚: 土に触るといふ行動はしあわせホルモンと呼ばれる「セロトニン」の分泌を活発にする効果がある

聴覚: 屋外作業のため、鳥の鳴き声、風の音を耳にできる

嗅覚: 土の匂いや花の匂いを嗅ぐとここで嗅覚が刺激される

味覚: 自分で育てた野菜を食すことで味覚も刺激され幸福感に満たされる

私の87歳の母の健康維持のため、実家の庭で菜園・ガーデニングを始めて1年になります。私が土を耕し、苗・お花を植え、母が水やりを担当。昨年の夏にはキュウリ、ナス、トマトが食べきれないほど収穫できました。次はジャガイモ、ブロッコリーの収穫が楽しみです。

今度、畑作業をするとき、声をかけていただくと嬉しいです!



ため、事実とは違っても安心・納得させる嘘は必要悪でありその人を尊重した精神療法だと思ふ。一方、断片的にでも憶えている患者さんは誠実に本当のことを言わないと不信感・不安感がかえって増し、病状が悪化する事がある。一人一人の病状に応じて誠実に人間らしく扱うと患者さんに安心感が生まれ、それだけで症状が落ち着く場合も少なくない。

【雑感】

老人の精神症状はかなりの部分、扱われ方も含めた環境の良しあしで変わる事が多く、拘束のストレスだけでもかえって病状が悪化する場合があります。それを見てきているだけに、拘束をしないというこの病院の考えに共感して就職しました。行動制限をしない代わりに労力をかけているのにも感心していますが、それにも増して介護の工夫が素晴らしく、感動ものものことも稀ではありません。

一般の精神科病院では急性期症状が落ち着いたらすぐに出されてしまいます。老人はそもそも環境変化が苦手なのに、せつかく慣れた患者さんかわいそうだし、短期で次の場所を探さなくてはならないご家族も気の毒だとずっと思ってきました。それに対して、当院は精神症状が落ち着いた後でも基本ずっといられるので、患者さんにも家族にもとても良い所だと思っています。

1病棟 介護員

小沢 のり子

患者さんは毎日規則正しい生活を送っています。そのような生活にメリハリをつけていたかどうか、夕方の短時間ではありませんが、院庭へお散歩に行ったり、談話室へアイスやジュースを飲みに行ったりすることがあります。一人ひとりの昔話に花を咲かせて、笑顔で一日を振り返ったりします。患者さんが少しでも気分転換出来るよう、スタッフが付き添って、ゆったりと過ごす時間を作っているのです。

なかには、夕暮れ症候群で家に帰りたいと悲しんでいる患者さんもありますが、このような気分転換をすることによって皆さん笑顔で病棟へ戻られます。また、病棟にいると季節を感じる事が少ないのですが、お散歩に行つて外気に触れることにより、四季折々の風景を五感で感じる事が出来ます。

先日、院庭でお花見会を実施しました。満開の桜の下でおしるこ甘酒が振舞われ、笑顔溢れる会となりました。これからも限られた入院生活の中で、患者さんが楽しむことができ、皆を立てて、皆さんに喜んでもらえるよう職員一同心がけていきます。

